

新しい価値観 (マルコ 9:38-50)

その人がどのような価値観を持っているかによって、その人の人生の方向が左右されることとなります。何のために生きるのか、何を目指して生きていくのか、ということが決められることでしょう。クリスチャンはどのような価値観を持って生きていくべきでしょうか。残念ながらクリスチャンになったにもかかわらず、価値観は昔のまま、古いままなので、いまだに間違った方向に進んで迷っている信者が少なくありません。今日、私たちは信者、クリスチャンとして、どのような価値観を持つべきなのか、昔、私が大事にしていたものと、クリスチャンになってからどう変わっているのか、何が新しくなったのか、ということを中心にして考えていきたいと思えます。クリスチャンとは、イエス・キリストの福音を頂いているものを意味します。

1. 福音を知ると、新しい価値観が生まれ、神様の方向と一致する。

なので、第一に、福音が何か正しく分かっているならば、その人には新しい価値観が生まれて、神様の方向と一致することになります。もう一度言います。福音が何か正しく知ることになれば、その人は必ず新しい価値観が生まれて、その人の人生の方向は神様の方向と合うようになります。

1) 霊的事実とそれが永遠なることと、永遠の世界を認める。

なぜかと言いますと、福音が何かわかったということは、今まで気づいていなかった永遠なるもの、永遠なることに気づいて、それを素直に認めるようになったということです。私たちは生まれてからすべて目に見えるものだけであって、また消えてなくなるもの以外には何も知らないで感じることもありませんでした。しかし、イエス・キリストの福音をいただいて、イエス様を信じることによってたましいが生かされ、初めて永遠に変わらないもの、永遠なるものに気づくようになりました。この世界と宇宙万物、また私たちを造られた創造の神様がいらっしゃる。しかし、神様は肉眼には見えないお方です。神様は霊です。そして、その神様はすべての被造物を作られたときに、人間だけに永遠に消えることのないたましいを与えられました。それで人間だけが被造物の中で唯一、霊的な存在になりました。神様は霊であり、神様は永遠なる方です。そして、その神様によってたましいが与えられ、神のかたちで造られた霊的存在である人間のたましい、そのたましいも消えることなく永遠なるものなのです。そして、神様に敵対して悪魔サタンになったもの、その悪魔サタンも霊であり、消えることなく永遠に続くものなのです。その悪魔サタンに惑わされて人間は、自分を造られた神様に罪を犯して神様を離れることでそのたましいが死んでしまいます。たましいが死んだままの状態、それも永遠に続きます。どんなに頑張っても死んだたましいが変わることなどはありません。環境が変わり、時代が変わろうとも、その悪魔の誘惑によって罪を犯して死んでしまったたましいの状態は永遠に続くわけです。それで生きている間にも自動的に悪魔サタンの奴隷として生きていて、やることなすことすべてが滅びるしかないこと以外にはできない存在になりました。自分ではよかれと思ってやることでさえ、神様をご覧になったときには、根本的に悪魔の奴隷の状態なので、滅びること以外には何もすることができない、そういう人生を送ることになり、結局、一度は死んで、死んだ後は、そのたましいは永遠の刑罰、永遠の地獄の方に落ちることになります。これが永遠に変わらない事実なのです。霊的事実であり、霊的なことは永遠なるものなのです。福音がわかったというのは、今まで学校でも教えられたこともないし、親からも教わったことがない、自分で経験したこともない、この霊的な事実が目が開かれて、永遠なるもの、永遠の世界が存在するというに気づくことになったということなのです。人は悪魔に惑わされて罪を抱えてるまま、たましいが死んだままの状態です。たましいは消えることがないので、人間が死んで肉体が朽ちることがあっても、たましいは死んだままの状態、罪を抱えてるままの状態、悪魔の奴隷のままの状態、永遠の地獄の世界に落ちることになっています。これが事実であり、福音が何かわかったということなのです。

2) 地上での最高の重要課題はたましいの救い

ならば、この福音を本当に素直に認めるクリスチャンであれば、この地上にいる間に最高に重要な課題は何なのでしょう。それはこのたましいが死んだままの状態、罪のままの状態、永遠の地獄の世界に引きずり込まれることがないようにすることではないでしょうか。違いますでしょうか。何が一番

大事なことでしょうか。何が一番重要な課題なのでしょう。たましいが救われることです。福音が本当に正しく分かったとすれば。しかし残念ながら、教会に20年、30年に通っていても、福音が何か分かっていないので、霊的な事実未だに鈍感で、目に見えることをただ肉体的に感じることにこだわることだけになるクリスチャンなので価値観が変わらないのです。本当に永遠に変わらないもの、永遠に続くものがあるのでしょうか。霊的な世界が本当にあるのでしょうか。永遠の世界、天国と地獄が待っているということが本当なのでしょう。たましいが死んだままの状態では地獄に行くしかないということが本当に事実なのでしょう。ならば地上にいる間、勉強もしなきゃいけない、ご飯も食べなきゃいけない、結婚もしなきゃいけない、さまざまなことがあるでしょうけれども、一番重要な課題はたましいが救われることなのです。そして、そのたましいが救われることは地上にあるものでは不可能であって、神様が恵みによってたましいの救いのためにイエス・キリストを約束してイエス・キリストをこの世に送られ、イエス・キリストが十字架で死なれて、3日目に死の力を打ち破って復活なさいました。

3) イエス・キリストを信じること

このイエス・キリストを信じる時にたましいは救われます。マタイ11:28には、「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」とおっしゃいました。そのイエス・キリストの方に行くこと以外には、たましいの救いはありません。ヨハネ5:24、「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」。イエス・キリストを信じる信仰のほかには、たましいの救いはありません。永遠の世界の方向が変わることなどはありません。それで、このイエス・キリストを信じることでローマ8:1、死と罪の原理から永遠に解放されます。つまり、一番重要な課題、最高の価値というのは、イエス・キリストを信じてたましいが救われることで、地獄の運命から解放され、天の御国の国籍をいただくこと、これより大事なことはありません。これが最高の価値なのです。クリスチャンでさえ何が最高の価値なのかが世の中の人とあまり変わらない、昔とほぼ同じなのです。悩むことも、泣くことも、笑うことも、喜ぶことも、その価値観によって左右されるでしょう。何のために笑って泣いて心配して、また喜んでいらっしゃるのでしょうか。何を価値にしてそのように左右されているのでしょうか。正直、人間はなぜ生まれてくるのでしょうか。この価値観が新しくなった人は、迷うことなくすぐに答えられます。なぜ人間はこの世に生まれてくるのでしょうか。イエス・キリストを信じるためです。それ以外の理由はありません。それより大切なことはありません。それから、なぜ人間はこの世に生まれてくるのでしょうか。他の人もイエス・キリストを信じて、たましいが救われることを手伝えるためにこの世に生まれてくるわけです。それが人間がこの世に生まれてくる理由です。しかし、クリスチャンのほとんどの人もそういうふうにする人がいません。なぜなのでしょう。教会に通って礼拝をささげている価値観が変わっていないからです。いまだに他の何かが価値なのです。他のものは全くいらぬという幼稚な話ではありません。ご飯も食べないと死んでしまいます。食べないといけません。勉強もしないといけません。愛情も必要でしょう。技術も才能もスペックも必要でしょう。しかし、それはたましいの救いとまったく関係ありません。たましいの救い、イエス・キリストを信じる信仰が最高の価値です。その価値観を持つようになったときに、それらすべてがそのための聖なる道具になります。だから、そこに神様が加えて祝福を与えられるわけです。しかし、今日の聖書を見ますと、この福音がいまだによく分かっていない弟子たちが、イエス様に従っているにもかかわらず、道端で議論していました。その議論のテーマが誰が一番偉いのかということだったわけです。今日読んでいただきました聖書の少し前の部分にそういう内容が紹介されています。

4) 福音を知らないで違う価値を追い求める

つまり、福音が何か分かっていないと、クリスチャンでありながらも違う価値を追い求めていくようになります。誰が偉いのかと。32節を見ますと、「しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。また、イエスに尋ねるのを恐れていた」。イエス様が十字架で知られて復活するというお話をしたら、意味がよくわからなくて質問するのも怖がっていました。全くまだ福音が分かっていません。その結果、34節です。「彼らは黙っていた。道々、だれが一番偉いかと論じ合っていたからである」。それに対して37節にイエス様はこういうふうにあります。「だれでも、このような幼子たちのひとりを、わたしの名のゆえに受け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け入

れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです」。この小さな幼子、彼らにとって何の価値もないと思っている幼子であっても、私の名によって受け入れるというのは、イエス・キリストを信じることができるよう、それに関わる奉仕をするということです。となると、皆が見たときにはちっぽけなことのようと思われることであっても、イエス・キリストを信じることに絡んでいることのための献身、そのための奉仕であれば、最高に価値あることなんだよとおっしゃりつつイエス様が弟子たちにおっしゃったのは、あなたがたの価値観を変えなさい。何を議論し、何を論じあって、何をテーマにしているのか。誰が一番偉いのかとなぜそういうことをテーマに取り上げて議論しているのか。人のたましいが救われるにはどうすればいいのか。どうすればイエス・キリストを信じることが、信じてもらうことができるのか、ということに集中すべきではないのかということをおっしゃっている場面なのです。福音がなにか分かっている人は、このような新しい価値観が生まれます。たましいが救われること、永遠に関わること、それに最高の価値を見るようになり、そのためにはイエス・キリストを信じる信仰より価値あるものはありません。それを最高の価値にして、その価値観をもって新しく人生をやりなおして生きて行くこととなります。

5) 信者の価値に目覚める

その新しい価値観を持っている人は、信者自分の価値にも目覚めるようになるでしょう。41節でイエス様がおっしゃいました。「あなたがたがキリストの弟子だからというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません」。どういう意味でしょうか。イエス・キリストを信じたクリスチャンだという理由で、水一杯をもてなしてくれる、それがちっぽけな水一杯でも報いを失うことはない。つまり、イエス・キリストを信じていのちが与えられているあなたがたは、どれほど価値ある存在なのかということをおしえていらっしゃるわけです。それに気づくようになります。外見がどうであれ、社会的な地位や才能がどうなのかと関係ありません。それは価値観がまだ変わっていないからです。クリスチャンにとって最優先課題の一つと言えば、価値観が変わることです。変わらないので祈りも変わりません。何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、どうすれば大学に入れるか、どうすれば就職できるか、どうすれば良い結婚ができるか。そういうことばかりではないでしょうか。それはある意味、自分の価値がいまだよく分かっていない裏返しのようなものなのです。なぜ自分の価値が分かっていないのでしょうか。そういうことで飾ると、自分の価値が上がっているからではないでしょうか。たましいが救われること、イエス・キリストを信じること、それより価値あるものはありません。クリスチャンはそれを最高の価値にして新しく人生を歩く存在です。

2. 新しい価値観は正しい選択へと導き、実りある人生を歩ける。

そして、この新しい価値観を持っている人は、その新しい価値観が正しい選択へと導いて、実りある人生を歩けるようになります。新しい価値観です。イエス・キリストを信じることこそ最高の価値です。たましいが救われることが最高の価値なんだ。たましいが救われていないのに大統領になった。いろいろな意味があるでしょうが、幸せでも成功でも何でもありません。お祝いできるようなことではありません。永遠の世界があると本当に信じるのであれば、たましいが救われていないのに、元々その人の人柄が優しく、みんなに好かれている。だからといって幸せなのでしょう。クリスチャンが見るとそうではありません。永遠の地獄が待っているたましいではないのでしょうか。永遠の世界を認めていないので、価値観が変わらないのです。クリスチャンの価値観というのは、永遠なるものを永遠の世界を基準にして、それを根拠にして新しく生まれるものなのです。この価値観から見ると、四福音書の聖書でイエス様が弟子たちにいろいろお話しされた内容が理解できるようになります。すべてがなぜ未だに肉なのか。なぜ肉なのか。なぜ肉なのか。そういう話ばかりなのです。心配することも恐れることも喜ぶことも全部が肉なのです。霊的事実、永遠に変わらないもの。永遠の世界を前提にして動くようなことが見られなかったのです。新しい価値観、これがクリスチャンの価値観です。その価値観は正しい選択へと導いて、実りある人生を歩けるようになります。

1) 今まで(この世)の選択の基準

今までの選択は何を基準にしていたでしょうか。この世の中でも今現在、何かを選ぶ選択するときの基準はなんなのでしょうか。自分の願いがかなえられるかどうかを基準ではないのでしょうか。肉的に生活が裕福になって金持ちになり、生活が安泰、安定しているということが基準ですべてを選択しているのでは

ないでしょうか。この世において認められて成功を取めるということ、それに有利なのか不利なのかを基準にして、すべてを選択するでしょう。これを聞きながらクリスチャンの自分もあまり変わらないなと思う人が一番正直な人です。だからイエス様はずっと何を食べるか飲むか、そういうことに求めないでおっしゃっているわけです。そこをクリアしないと、使徒の働きの方に進んでいけないわけですから。価値観が変わることです。先週申し上げました。霊的な癒しのために、権威を信じる信仰。そこでターニングポイントになります。

2) 福音と福音宣教、教会の益

もう一つのターニングポイントです。教会の信者ひとりひとりも価値観が本当に変わるかどうかです。今まではそういうことを基準にして何かを選択するとき、何かを選んだりしてきました。しかし、新しい価値が持っているものは、たとえ自分の願いと反対の方向に行くにしても、肉体的により苦しめられることがあっても、世的に成功でなくて失敗に終わるようなことがあるにしても、それが福音に益となることであればそれを選択します。なぜなら福音のほかにはたましいの救いはありませんので。そして、その福音が宣べ伝えられる福音宣教に有利なのかどうかによって選択することになるでしょう。価値観が変わっているから。言葉ではそう言っても実際、選択するときにはそうでないなら、その人は実際的には価値観が変わっていないのです。刻印そのものが。それからこの福音と福音宣教のために唯一建てられているところが教会です。皆さんが見たときには、教会の外見と見た目が同様に映るかわかりませんが、教会はそのようなものではありません。この世において唯一、福音の光を話すことのために神様が建てられたキリストの体なるものなのです。なので、教会に祝福になるのか、教会に益になるのか、得になるのかを基準にして選択します。たとえそれが私が無視されることになったとしても、それで訴えるか黙るかの選択は、教会に益となるかどうかです。もし訴えることで自分はアピールできるかもしれませんが、それで教会がぐちゃぐちゃになるのであれば私は言わないことにします。そういう選択の方に導かれるのです。なぜなら価値観が変わっているから。自分が認められることが選択の基準ではなくて、たましいの救い、イエス・キリストを信じる信仰、それに益になるかどうか、いつもそれを基準にして選択をすることになります。

3) 石臼、手、足、目

そういう意味で石臼の話が出ているんですね。もしイエス・キリストを信じることに支障を起こすようなことがあれば、この小さな人でも、逆に石臼を首にかけて海に落ちて死んだほうがましですよという表現をします。どういう意味なのでしょう。イエス・キリストを信じる信仰、それに邪魔になることであれば死ぬほうがましなくらい最高の価値なんだと。そういう意味なのです。なので何を選択するのでしょうか。あなたの手が罪を犯したら、足が罪を犯したら、目が罪を犯したら、それを切り離して天国に入った方がいいんじゃないのという話をしました。手を切り落とせば天国に入るかと言いますとそうではなくて、イエス・キリストを信じる信仰に支障を起こすようなことがあれば、それを全部切り落とす、切り捨てる方を選択するということです。それが選択の基準です。なぜならイエス様を信じる信仰が最高の価値なので、価値観が変わっていればそれを基準にして、それに邪魔になること、それに支障になること、自分自身を含め、ほかの人がイエス様を信じることに邪魔になることであれば、私の手が邪魔になればそれを隠すわけです。自分の主張が相手がイエス様を信じることに邪魔になるならば、自分の頑固さが邪魔になれば、それを抑えようという意味なのです。何をどのように選択すべきなのか。イエス様を信じてたましいが救われることは、命とも替えられないほどの価値です。価値観が変わっているから。いつもそれを基準にして選択します。だから、祈らないといけません。神の恵みによって聖霊の力によって自分というものが抑えられないといけません。

4) ラハブ、ルツ、エリシャ、ヘブル 11 章、初代教会

聖書を見ますと、エリコ城の民だったラハブという女の人は、エリコの人から見ると国を裏切った者になります。しかし、イスラエルの民をもてなして匿って、結局イスラエルに寝返ることになります。エリコから見ると。しかしラハブは、たましいの救い、イエス・キリストを信じること、永遠の天国ということが最高の価値だと分かっていたので、それを選択しました。わかりますか。選択という意味が。ルツという人は異邦人の女の人です。イスラエルの人と結婚して旦那さんはみな死んで、すべてが滅び姑が自分の国イスラエルに戻ろうとしたとき「あなたがたは旦那さんもないのでもう自由にしてい

よ」と言いました。そういう状況ではイスラエルに戻っても何の良いこともないのではないのでしょうか。だから新しく人生を再出発するというのが筋なのです。しかし、ルツはその選択をしないで「私はあなた（姑ナオミ）が信じているヤーウエの神様、そちらの方に行きますよ」と答えます。自分の国でもないから異邦人扱いされるのではないのでしょうか。しかし、イスラエルの方について行ったわけです。それを選択しました。なぜならキリストは最高の価値だとこの女の人は分かったからです。それで2人ともイエス様の家系図の中に名前が入れられることになったのです。これが選択というものなのです。エリシャも同じ神学校の生徒たちがいろんなことを選ぼうとしているときに、たましいの救い、キリストの約束のために、あなたの霊の2倍の祝福をお願いしますとそちらの方を選択しました。今すぐ目の前に良いものが入ってくるのではなくて、霊的に力を得る方を選択しました。ヘブル11章に出てくる人々は、皆がそういう選択をした人々であり、初代教会もそうです。タラップンの教会に集まると殺されるかもしれません。すべて失うかもしれません。迫害されている状況にもかかわらず、彼らはそこに集まり契約を握って約束が成就することを待つところを選択しました。その結果、今の私たちのところまで福音が届くことになったわけです。選択が大切なのです。価値観が変わることです。その価値観に基づいて、これから正しい選択へと導かれるようになります。それを人生の勝利と言います。

5) エペソ 3:13、ピリピ 1:18-20

頑張って勝利を手に入れるのではなくて、パウロはこのように言います。エペソ 3:13「ですから、私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようお願いします。私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの光栄なのです」。パウロは苦しみを選択しました。それが教会、福音宣教のためだということがわかったので。誰でも苦しいことを好きな人はいませんよ。しかし、パウロの選択の基準は、それが苦しい道なのか、楽な道なのかではありません。福音のために、福音宣教のために、ほかのたましいが救われることのために、どちらが望まれる道なのかという問いかけの上でいつも選択をしていました。ピリピ 1:18-20にも同じようなことをピリピの教会にパウロは手紙を書いて送っています。

6) 譲り、受け入れ、超越、挑戦の心構え/Only、唯一性、再創造の答え/C.V.D.I.Pの道

だから、新しい価値観を持っている者は、大体譲る方を選択します。喧嘩したり競争したりではなくて、また状況が正しいかどうか、合うか合わないかで論ずるのではなくて、受け入れる方を選択します。それから、そのすべてが何も問題ないという超越の方を選択します。それで御座の祝福と神の国のことの方に挑戦します。それは必ずそこに残っているものなので。でも価値観が変わっていないものは挑戦以前につまづいて倒れてしまうのです。受け入れて譲って超越して、それでやることは挑戦です。御座の祝福が現れて、神の国のことがなされる、それに挑戦する心構えを持って、それと目に見える現実に騙されないでいつもそこにOnly、唯一性、再創造の答えがあることを見つける方を選択するので。いつも。誰かが悪い、良いに囚われることなく、そこでOnlyを見つけようとそちらの方を選択するようになります。なぜ価値が変わってるから。結局、CVDIPの契約の旅程の道を歩むようになるし、その道を選択することになります。これこそが人生の勝利です。レムナントの皆さんは、今からこれを練習して身に付けていかないとはいけません。私たちは何でもかんでも自分の気持ち次第で目に映るその通りに反応することに慣れていきます。皆さんがなんで？悪いな、良いなと思って、その裏側に知らない霊的事実があることを今から気づいて意識していかないとはいけません。そして、それは永遠なるものです。皆さんの価値観が小さい時から、たましいが救われること、私が金持ちになるのか、親に愛されるかそうでないかではなくて、たましいが救われること、イエス・キリストを信じること、これに最高の価値をおいて自分の価値観を改める必要があります。私はイエス様を信じていのちが与えられているんだ。だから最高に価値あるものなんだ。そして、ほかの人のたましいが救われるように、私は用いられるものなんだ。それに最高の価値があるんだ。そういうふうに変更してピリピ 3:7-9、パウロの告白を自分の告白にするようにしましょう。今まで価値あると思っていたすべてをちりあくと告白しましょう。自由にならないといけません。そういうものによって左右されないレムナントにならないといけません。そして、この価値を改めて、新しい価値観をもってそれをベースにして自分の人生を編集するようにしましょう。ヨセフは総理大臣になりました。しかし、総理大臣はヨセフにとって価値あるものではありません。ヨセフにとって価値あったものはキリストと世界福音化だったわけです。その価値のゆえに、総理大臣が道具だったわけです。ダビデはイスラエルの王でした。しかし、王であることが価値

ではありません、ダビデにとっては。私の本当の王様は神様ご自身ですよいつも言ってるように。ダビデの最高の価値はキリストの世界福音化です。そのためにダビデは王という道具が許されていたので、それに最善を尽くしたわけです。だから、その道具が大事なものになるわけです。王そのものが価値あるものではなくて。このように人生を編集しないとイケません。今までの過去をこの最高の価値のための土台にして、今日の現実一日を生きることを、最高の価値を味わう今日として編集して、未来はこの最高の価値を広めておあかしするためのビジョンをもって編集するように。それが過去、現在、未来の編集なのです。でも、価値観が変わっていないと編集になりません。ぜひそのように福音の中で新しい価値観が生まれて、それをしっかり自分のものにして、これから残りの生涯いろいろな場面で混乱しないで正しい選択へと導かれるようにしてください。

となると、大体ここにたどり着くようになります。それらはあなたがたは知らなくてもいいです。聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまでわたしの証人となります。この約束にたどり着くようになるでしょう。これを握って14節の祈りに専念する、その祝福の方に入って行く価値観を持つ信者になることを主の御名によって祝福をいたします。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。暑い中で今日もイエス・キリストを信じる信仰、たましいの救い、天の御国の国籍、これに最高の価値をおいて礼拝に集うことができありがとうございます。どうかただ教会に通うだけではなくて、永遠なるもの、永遠の世界を素直に認めて、それを元にして何が本当に価値あるかを真剣に考えて新しい価値観が生まれて、それによる勝利者として用いられるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン